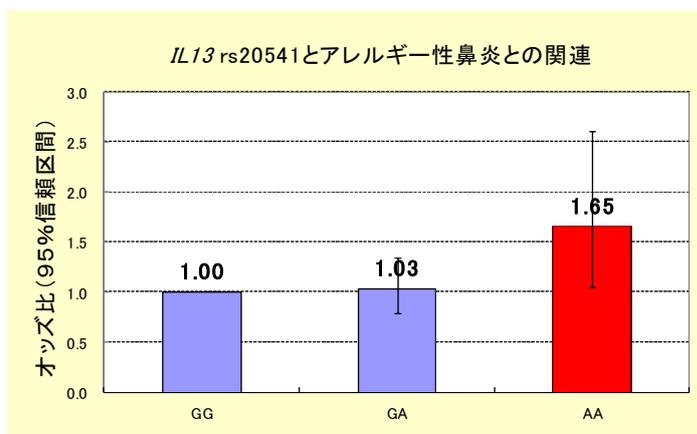


## 九州・沖縄母子保健研究ベースラインデータの結果 *IL13* 遺伝子多型とアレルギー性鼻結膜炎との関連

**背景：**過去の6つの症例対照研究で、*IL13* 遺伝子多型とアレルギー性鼻炎との関連が調べられましたが、結果は一致しておりません。しかしながら、これら6研究から導かれたメタアナリシスでは、rs20541のAアレルがリスクの高まりと関連し、rs1800925とは有意な関連を認めませんでした。

**方法：**九州・沖縄母子保健研究に参加し、遺伝子解析研究に同意した1492名の母親の内、International Study of Asthma and Allergies in Childhood (ISAAC)に基づき、過去1年アレルギー性鼻結膜炎と定義された393名を症例群としました。対照群として、ISAACで過去1年アレルギー性鼻結膜炎がなく、これまで医師にアレルギー性鼻炎と診断されたことがない767名を選びました。TaqMan法でrs1800925とrs20541の遺伝子多型を調べました。年齢、居住地域、年上兄弟数、喫煙、アレルギー性鼻炎の家族歴、教育歴を交絡因子として補正しました。

**結果：**rs1800925とアレルギー性鼻結膜炎リスクとの間に有意な関連は認めませんでした。rs20541のGG遺伝子型を基準としまして、GA遺伝子型では有意な関連を認めませんでした。AA遺伝子型では有意にリスクの高まりと関連を認めました。感度分析として症例群を医師にアレルギー性鼻炎と診断されたことのある293名に限定して解析しましたが、結果は同じでありました。4つのハプロタイプが存在しましたが、CAハプロタイプは有意にリスクの高まりと関連を認めました。rs1800925と喫煙とのadditiveな交互作用は統計学的に有意でありました。rs20541と喫煙との交互作用は有意ではありませんでした。



**結論：**日本人若年成人女性で、*IL13* SNP rs20541及びCAハプロタイプとアレルギー性鼻結膜炎との間に有意な関連を認めました。また、rs1800925と喫煙との間に生物学的な交互作用があるのかもしれない。

**出典：** Miyake Y, Tanaka K, Arakawa M. *IL13* genetic polymorphisms, smoking, and eczema in women: a case-control study in Japan. *BMC Med Genet.* 2011; 12: 143.